事業戦略

ライフサイエンス事業

相良 誉仁
常務執行役員 ライフサイエンス本部長

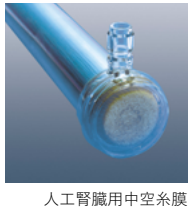
事業を通じて「人々に笑みある日常」と「世界中に驚き」を提供します

事業概要と市場環境

ライフサイエンス事業はバイオ、メディカル、医薬品製造受託の3分野で構成されており、バイオは臨床検査に関わる原料酵素や診断薬および診断試薬、診断システム、メディカルは透析膜など治療に関わるマテリアル、医薬品製造受託は製薬会社などから受託した医薬品製造を行っています。具体的には、PCR検査の判断時間を1/2に短縮した診断システムや人工腎臓用中空糸膜など、独自技術による高付加価値製品を保有しています。

生化学検査用の診断薬（中性脂肪やコレステロールの測定など）に用いられる原料酵素事業においては高いシェアを有しており、新興国などの経済成長に伴い市場が安定的に成長しているため、原料需要の高まりに応えられるよう計画的な投資を実施しています。

また、世界の透析患者は400万人を超え、現在も年率6%で増加しているため、人工腎臓用透析膜の加工・製品化まで一貫生産できる大館透析膜工場（ニプロ（株）と協業）を2024年4月に新設しました。今後は発展途上国を中心に透析患者の増加が見込まれる地域に対して、当社グループの膜が貢献できるよう、生産性の向上に取り組んでいきます。



人工腎臓用中空糸膜

事業の特徴や強み

当事業は、医療・医学、医薬分野で最上位レベルの生産体制（QMS※とGMP）の下「人々に笑みある日常」と「世界中に驚き」を提供し、お客さまの健康ステージに応じた要望を具現化させるべく「バイオ」高性能なタンパク質を作る技術と「メディカル」製膜技術の二つの技術を中心に強みを磨いています。

※Quality Management System：品質マネジメントシステム

バイオ事業：高性能なタンパク質（酵素・抗体など）を作る技術

培った微生物培養・タンパク質精製技術と遺伝子組み換え技術により、高純度の酵素の大量製造や、その酵素を用いる高性能な診断薬の開発・製造を実現。当事業ではエンドユーザーのニーズをとらえ、さらに優れた酵素や抗体、それらを用いた診断薬・研究試薬の開発を目指す。

メディカル事業：製膜技術

人工腎臓用中空糸膜で培った膜構造制御技術により、高性能透析膜の開発・製造を実現。当事業では国内外の透析患者、施設の治療ニーズに応える優れた透析膜の開発・製造に加えて、分離精製ニーズのある製薬プロセスなど他用途での分離材料展開を目指す。

2025中計における事業戦略と取り組み

2025中計の最終年度である2025年度目標は売上高400億円、営業利益40億円であり、2030年度は売上高800億円、営業利益120億円を目指しています。その達成に向けて、以下の取り組みを実施します。

製造	生産能力の増強、生産効率アップ、リスク低減のための2拠点化、生産委託（医療機器）を方針として、以下の取り組みを実施 ● **2023年10月**：新型コロナウイルスと共感染ウイルス（インフルエンザA/B、RSウイルス）の同時測定診断薬の発売開始 ● **2024年4月**：培養・精製新棟稼働開始 ● **2025年2月（予定）**：PCR検査試薬・遺伝子診断薬用原料製造設備稼働開始
営業	適正価格化、販売拠点の強化、3事業のナレッジの共有
開発	研究棟の新設、コーポレート研究部門との連携、新製品（バイオ、メディカル）の開発を方針として、以下の取り組みを実施 ● **2023年6月**：持続緩徐式血液ろ過（CRRT）製品の薬事承認取得 ● **2023年9月**：「マンノシルエリスリトールリピッド（MEL）」がNEDO※の「バイオものづくり革命推進事業」に採択 ● **2024年4月**：メディカル研究所完成
事業基盤強化	人材の多様化・育成、DX施策推進 など

メディカル研究所開所式

※NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）

ゆたかさの実現に向けた取り組み

People	● バイオによる、人々にとって「より早く、高精度に、身近な」ヘルスチェックができる診断サービス提供 ● 健康寿命伸長に向けた、人体機能の再生・代替技術の提供 ● 迅速で正確な感染症の検査サービスの提供による感染症の予防および感染拡大防止 ● 2030年までに、伝染病の根絶と肝炎、水系感染症およびその他の感染症にも対処
Planet	● バイオものづくりにより脱石油素材、持続可能な素材の提供
Prosperity	● パートナー企業と「特定領域×新効能」への焦点化で、新薬の提供 ● 神経、骨以外の細胞リクルート材料の開発